

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議

だい 11 期 だい 1 年 だい 2 回 だい 2 日
(第 11 期 第 1 年 第 2 回 第 2 日)

ぎじろく
議事録

1 日時 2016 (平成 28) 年 9 月 11 日 (日) 午後 2 時 ~ 5 時

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 19 人

チャクラヴァルティー アルナンシュ、金 スンオグ、タカハシ ライゼール
ラモス、レ ベト ギア カン、幕内 嘉雯、河本 ファビオ 良則、スタント
イルワン、ピーターソン ケリー、河 相宇、バルトコバ オクサナ、ホサニ
アハマド ユースフ、牟 鳳菊、ドイツトマー ダニエラ、韓 簫、
ケゼングア エドワード ムウィンビ、キースタ ケーシー ジェイ、蔣 香
梅、ヴィラマー ジェリー、サリ アビシエク

(2) 事務局

鈴木 室長、小川 担当課長、須藤 課長補佐、笛木 課長補佐、鈴木 職員、
西村 職員、高橋 専門調査員

4 傍聴者 7 人

5 会議次第 (公開)

(1) 開会のあいさつ

(2) 事務局説明

(3) 議事

(4) 事務連絡

(5) 閉会

【全体会】

ケゼングア副委員長「それでは、これから川崎市外国人市民代表者会議 2016 年度、
第 2 回第 2 日を開催する。本日は委員長のヘイ・ジャフィさんが欠席なので、

私が代理する。今日はヘイさんのほかに葉さん、ザスカさん、徐さん、鈴木さん、ジェリーさんと鎌田さんから欠席の連絡があった。議事に入る前に、前回の会議では補充を決定した代表者の委嘱がある。事務局、お願いします。」

(委嘱状交付)

サリ委員「日本に来て15、6年ほどで、川崎市民としては8年くらいだ。みなさんといろいろ話をしていきたいが、その中でも防災や外国人の日本語教育、医療について審議していけたらと思っている。よろしくお願いします。」

ケゼンガ副委員長「次に、今日の日程と配付資料の確認について事務局から説明をお願いします。」

(事務局須藤課長補佐が説明。)

ケゼンガ副委員長「続いて、前回会議のまとめについて事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料1に基づき説明。)

ケゼンガ副委員長「それでは、議事に入る。まずは臨時会についてだ。事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料2に基づき説明。)

ケゼンガ副委員長「何か質問はあるか。」

ホサニ委員「2ページ目の案の2についてだが、以前に大学の先生などを呼んで講演などをしてもらったことがあるのか。」

ケゼンガ副委員長「過去に大学の先生に来てもらったことがある。事務局から補足説明をお願いします。」

事務局高橋専門調査員「資料に載せているが、過去に何度もある。たとえば、第8期の2年目は「川崎市における国際化」というテーマでゲストを呼んでパネルディスカッションをしている。第9期の1年目は「ぼうさい出前講座」を企画して、市の担当者に来てもらい話を聞いた。第9期の2年目には「外国人コミュニティと社会のつながり」というテーマで大学の先生に講演をもらった。第10期の1年目も「代表者会議の成果と課題」というテーマで大学の先生や過去の代表者などに来てもらいパネルディスカッションをやった。」

ケゼンガ副委員長「ほかに質問はあるか。(なし)では、まずはスケジュールについてだ。案では、これまでと同じで12時に集合、14時から開催、17時終了。そのあと交流会となっている。昨年の振り返りでも、ちょうどよかったという意見が多かったが何か意見や質問はあるか。(なし)それでは、

決をとる。賛成の人は手を挙げてください。（全員賛成）次に、メインプログラムについて審議する。案では、大きく分けて①一般の参加者からの意見を聞くことをメインにするか、もしくは②学識経験者や地域で活動している人などから話を聞くことをメインにするか、とある。事前の打ち合わせでは、せっかくオープン会議にしたのだから前半はグループディスカッションをして、後半に全体で発表、共有というのがよいのではないか、ということ委員長と話をした。みなさんの意見はどうか。」

タカハシ委員「学識経験者などを呼んで講演やパネルディスカッションをやると、私たちが自由に議論したりする時間は減ってしまう。3つ目の案として、学識経験者などと一緒にワークショップやグループディスカッションをするというのはどうか。」

ケゼンガア副委員長「今のライゼールさんの意見に対して何かあるか。」

ディットマー委員「基本的にすごくいいアイデアだと思う。ただ、その場合に一般の参加者はどうすればよいのか。」

河本委員「一般市民の声を聞ける機会はオープン会議しかないので、そのことを優先させるのがよいと思う。学識経験者のような専門家の意見も大事だが、一般市民の意見も同じように大事だ。前半は一般市民とのグループディスカッションにして、あとから大学の先生などにコメントをもらうのはどうか。それと、大学の先生にはオープン会議ではない時に、参考人として来てもらってもよいかもしれない。」

ホサニ委員「オープン会議にはどのような人が、何人くらい来るのか。」

ケゼンガア副委員長「事務局、説明をお願いします。」

事務局高橋専門調査員「年によって違うが、おおよそ50、60人くらいは来ると思ってもらえるとよい。代表者と合すると100人くらい。多ければ100人を超える年もある。参加者はもちろん外国人市民の方もいるが、基本的には日本人の方が多。みなさん、外国人市民の声を聞きたいと思っっていると思うが、日本人からの意見を聞くことも重要だ。どういった人が、どのくらい来るかというのは、みなさんの広報によるところもある。」

ホサニ委員「思っていたよりも参加者が多いようなので、それならば一般の参加者からの意見を聞くことを優先した方がよいと思う。」

チャクラヴァルティー委員「一般の参加者の意見を聞くことは大事だと思う。その場合、あまり具体的なテーマに絞らないで、幅をもたせた方がよいと思う。」

ディットマン委員「あまり具体的なテーマを設定しない方が自由に議論できると思うが、一方でまとめるのが大変になるかもしれない。ある程度はテーマを決めた方がやりやすいと思う。それと、去年はサポーターがいてくれたが、今回もそういう役割の人がいてくれると助かる。」

ケゼンダ副委員長「それでは、そろそろ決をとりたい。ここまでの議論をまとめると、やはり2つの案のどちらかということになると思う。まず、①一般の参加者からの意見を聞くことをメインにする、に賛成の人は手を挙げてください。（賛成多数）では、一般の参加者からの意見を聞くということを優先させたい。グループディスカッションか、ワークショップかということについては、みなさんグループディスカッションという意見が多かったように思う。グループディスカッションに賛成の人は手を挙げてください。（全員賛成）時間も少なくなってきた。あとはゲストについてだが、途中でも意見があったように、最後にアドバイスをしてくれるコメンテーターがいてくれた方がよいと思うのだが、何か意見はあるか。」

ピーターソン委員「先ほど、去年はサポーターがいたという話も出たが、コメンテーターがグループの中に入ってアドバイスをしてくれたりするのか。」

ケゼンダ副委員長「去年は、コメンテーターとサポーターは別だった。」

キースタ委員「どういうテーマについて話すのかが決まらないと、どういった人何人呼ぶのか決められないと思う。」

スタント委員「可能であれば、インタビュー調査をした人たちに何人かに来てもらうのがよいのではないか。」

ケゼンダ副委員長「時間が過ぎているので決をとりたい。コメンテーターを呼ぶことに賛成の人は手を挙げてください。（全員賛成）どういった人に来てもらうかは、次回に持ち越しにする。

それでは、次の議事に移る。まずは、グループワークについて事務局から説明をお願いする。」

（事務局高橋専門調査員が資料3に基づき説明。）

ケゼンダ副委員長「できれば、限られた時間なので進め方について議論するよりも、実際のディスカッションに時間を使った方がよいと思う。何か質問や意見はあるか。（なし）では、進め方は案の通りでよいか。賛成の人は手を挙げてください。（全員賛成）それでは、さっそくグループに分かれて話し合い

をしてください。時間は3時55分までだ。全体会は4時5分から再開する。」

【グループディスカッション】

(休憩)

【全体会】

ケゼングア副委員長「それでは再開する。まず、各グループからの報告を4分ずつお願いする。まずは、Aグループからお願する。」

河委員「それではAグループの発表をする。Aグループでは、情報と相談窓口についてが割と盛りあがった。それと、情報、相談窓口、区役所サービスは大体同じような内容で考えられるのではないかということだった。具体的な意見としては、川崎市に引っ越してくると区役所でいろいろな案内をもらうのだが、実際にはなかなか読む機会がなく、ボリュームも多すぎて読めない。そういったことがありながら、情報が必要になった時に探そうとしても見つけられないということがある。インターネットサイトもわかりづいらいので、検索しやすいように改善して欲しいという意見があった。情報は常に新しいものにアップデートする必要があるが、区役所に行ってみたら2、3年前の資料だったという意見もあった。」

バルトコバ委員「子育てと学校教育についてはつながりがある。とくに、仕組みがわからない、制度がわからないという声が多かった。あと、配偶者が日本人のケースだと、いろいろなことが配偶者に教えてもらえるが、外国人同士だとそれができないかもしれないという意見が出た。母語と母文化については、ネットワークづくりの必要があるという意見が出たが、行政にできることの限界もある。」

河委員「日本語学習のところでは、日本語を勉強するのになぜか日本語の案内が多い。日本語の勉強が必要な人に案内するのだから、まずは外国語で案内する必要があるのではないかという意見が出た。異文化交流に関しては、日本人にとって外国人にとってというのを分けて考えた方がよいのでは、という意見が出た。外国人にとっては日本人と交流できる場が欲しいというのが大きいし、日本人には小さい時から学校などで国際理解や多文化理解の教育をしていくことが必要だろうということだった。」

ケゼンダ副委員長「次はBグループの報告を私からする。まず、情報については意見が一致したのは、情報はたくさんあるということだ。ただし、情報は日本語が多くて、やはり多言語に翻訳されているものは多くない。それと、情報があっても知られていない。情報があること自体を知らない人も多いのではないかという意見もあった。相談窓口については、ほとんどの窓口は日本語で、日本語ができればいくらでも相談はできる。ただし、外国人の場合は日本語が不自由な場合が多いので、やはりそこが課題だということになった。ほかには、以前あった外国人登録の窓口がなくなったので、外国人にとって窓口がわかりにくくなったという意見もあった。生活の中で、急に困ったことが起きた時にどこに相談すればいいのか、ということも課題としてあがった。

子育てと学校・教育も近いテーマということで一緒に話をした。やはり保育所に入る時や学校に入学する時など、制度がわかりづらいという意見があった。あとは、いじめの問題も話題になった。ただ、子どもがいじめにあっても、必ず親に相談するとは限らない。」

ドイツ委員「母語・母文化に関しては、子どもが日本で育てている場合は日本語ばかりの環境になるので、積極的に自分の母語を習おうとしない子どももいると思う。ただ、この問題は親の責任という部分が大きいと思うので、母語・母文化の教育を行政に求めるのはちょっと違うかなという意見が出た。日本語学習に関しては、求めるレベルとどのような人なのかによってニーズが違う。たとえば、主婦なのか、働いている人なのかによって、ニーズやPRの仕方も違う。コースがあっても、平日だと行けないという人もいる。それと、大きい問題としては、自分から積極的に学ぼうとしない人もいるだろうと。そういう人に対してどうしたらいいのか、どうPRしたらいいのか。

多文化共生に関しては、子どもにフォーカスした取り組みはいろいろあるが、せっかく子どもに教育をしても親が「違うよ」と言ってしまうと意味がないので、親にも理解を深めてもらうための取り組みが必要ではないかという意見が出た。ほかに、イベントはたくさんあるが、イベントの情報をどこで入手すればよいかわからないという意見も出た。ただ、それは情報ともつながっている課題だ。情報を入手するためのネットワークづくりが重要だと思う。」

ケゼンダ副委員長「次はCグループから報告をお願いします。」

タカハシ委員「情報に関しては、調査報告書を読んで一番重い課題と考えたのは、いろいろな情報やサービスはあるが、そういった情報が適切な人たちに届いて

いないということだ。川崎市に引っ越して来た時にもらう情報は、とりあえず生活に必要なものはあるので役に立っていると思うが、入っていないものもあるし、結局、知り合いから情報を得ているという意見が多かった。相談窓口は、相談しても必要な情報が得られないこともあるという意見やどこに行けばよいかわからないので、リストアップしてもらえるととても助かるという意見があった。言葉の壁については、最近、川崎区と麻生区でタブレットを使った通訳サービスがあるそうだが、利用者が増えないとほかの区での導入が進まない。子育てで一番多く時間を使ったのは、保育園についてだ。仕事をしていないとなかなか保育園に入れないが、保育園に入れないと仕事ができないというループになっている。保育園に入るまでの条件や仕組みも複雑で、理解するにはハードルが高い。学校・教育では、高校受験が大きな課題ではないかという意見があった。いじめの問題にも触れたが、いじめがあった時に何をすればいいのか、どこに行けばよいかということが課題としてあがった。」

ヒラチャン委員「多文化共生については、学校での差別の解消ということで日本人と外国人の交流の場所や機会を増やす必要があるのではないかという意見が出た。そういった場所にどうやって来てもらうかということについては、情報とつながる部分もある。それと、日本語学習については、今も学べる場はいろいろあるのだが、体系的な学習をする場は少ないのではないか、日本語が話せない生徒にどういふふうに対応するのかということが話題になった。母語・母文化は先ほどのグループと同じで、基本的にはそれぞれの家庭でどうするのかという部分が大きいと思う。同じ国の人同士のコミュニティができて、行政には場所だったり、そういったコミュニティがあるという情報の提供だったりという部分で支援をしてもらえるとよいのではないかという意見が出た。」

ケゼンガ副委員長「続いて、Dグループから報告をお願いします。」

金委員「情報と相談窓口については、ほとんど一緒に議論した。インターネットで見つからなくても、市役所や区役所に行けば情報があるという意見もあった。それと、今は外国人登録の窓口がなくなってしまったので、役所全体に多言語の案内があると助かるという意見が出た。あと、ほかのグループでも出ていたが、川崎区と麻生区でタブレットを使った同時通訳サービスがあるそうなのだが、意外と知られていなくて利用者が少ないという話も出た。子育てと学校・教育も、一緒に議論した。保育園については、日本語が全然わからない子どもを預けるのは非常に不安だという意見が出た。それと、ほかのグループでも出

たが、保育園や幼稚園の入り方がよくわからないという意見も出た。外国人の
中には今、大きな問題になっている待機児童ということをよく知らなくて、す
ぐに入れると思っている人もいるそうだ。予防接種についても、案内が送られ
てくるが、複雑で理解するのはハードルが高いという意見が出た。あと、子
どもが小学校にあがってからのこととして、放課後に子どもを預けるところが
なくて困っているという話が出た。」

河本委員「母語と母文化に関しては、やはり個人差があるという意見が出た。何か
サークルのようなものがあるとよいと思う。日本語学習に関しては、外国人
も日本語を学習することが重要だということをPRする必要があると思う。
日本語を話せるようになることで、クリアできるようになる課題は多い。日本
語を覚えることはとても重要だ。多文化共生については、交流などのイベント
の情報がメールで届くとよいという意見も出た。川崎区には、外国人向けの
メルマガがあるので、そういったサービスが増えるとよいと思う。」

ケゼングア副委員長「では、各グループからの報告が終わったので、残りの時間は
質疑応答やディスカッションをしたい。まずは、何か質問はあるか。」

キースタ委員「事務局に確認したいのだが、このグループワークの目的は部会で何を
テーマとするのかを決めるためだと思うのだが、これからどういったかたちで
決めていくことになるのか。」

事務局高橋専門調査員「会議では事前に委員長や副委員長と相談したうえで、事務局
がたたき台をつくったり、提案をしたりすることもあるが、最終的に決めるの
は代表者のみなさんなので、あくまで参考意見として聞いて欲しい。少し話
を整理したい。まず、なぜグループワークをしているのかということだが、
前回までは最初からテーマを絞って審議をした方が効率がよいのではという
意見の人が結構いたと思う。それに対して、今日、実際にグループワークをし
てみると、たくさんの課題があるし、それぞれのテーマについてもいろいろな
意見があって最初からテーマを絞ることが難しいということがわかったので
はないかと思う。とくに新しく代表者になった人たちには、代表者同士の中
にもいろいろな関心や意見があるということがわかってもらえたのではないか
と思う。もちろん、グループワークをふまえて部会のテーマを決めることにな
ると思うが、まずはいろいろな関心や意見があるということを知ってもらい、
課題やアイデアを共有することが目的だ。

今後の見通しについてだが、グループワークを2回やって、オープン会議で

出た意見などもふまえて、もう一度、課題を整理して、部会で審議するテーマを絞ることになると思う。スケジュール的には、様子をみながら遅くても1月までに部会を設置するということになっているはずだ。テーマの数については、おそらく各部会で3つ、全体で6つくらいがじっくり深めるのにはよいかと思う。そのうえで、その中でさらに絞って提言をまとめることになると思う。」

ケゼンダ副委員長「事務局への質問だったのであえて事務局に振ったが、私の認識も同じだ。10期の時は、最初から部会に分かれて1年くらいかけていろいろなテーマを扱って最後に絞るという風に進めたが、扱うテーマが多すぎたのとみんなの認識が共有されていなかったので審議があまり深められなかったし、とても時間がかかったという印象がある。今回、こういう試みをしているのは、まずはみんなで認識とか情報を共有して、そのうえでテーマを絞って深く審議をしようということだと思う。もちろん、何か改善した方がよいことがあれば、ぜひ教えて欲しい。ほかに質問はあるか。(なし)では、意見や感想などはあるか。」

チャクラヴァルティ委員「これからテーマを絞る時には、情報、相談窓口、区役所サービスなど、今日の話し合いの中で関連していると思ったので、そういったものは結びつけた方がよいと思う。」

ディットマー委員「私も、みなさんの発表を見て思ったのだが、結構共通している流れがあって、とくに多文化共生と情報をつなげて考える必要があるのかなと思った。多文化共生に関する情報をどうやって入手するのかということに1つ課題があると思った。あとは、日本語学習も大きなテーマだと感じた。」

河本委員「今、いろいろなことを議論しているが、最終的にはそれを提言にするというのが大きな目標だ。だから、ただ課題を指摘するだけではなくて、具体的にどういう提言にできるのかということもこれからは考えていかなければいけないと思う。」

ケゼンダ副委員長「それでは、そろそろ時間なので今日のグループワークはここまですと。改善点など気づいたことがあれば、会議のあと構わないのでぜひ教えて欲しい。委員長や事務局と相談して、できるだけ反映させたいと思う。」

それでは、次は実行委員会報告だ。まずは、臨時会実行委員会について私から報告する。今日は、オープン会議の広報をどうするのかということを中心に話した。たとえば、学校でチラシを配ればたくさんの人に来てもらえるのではないかとアイデアが出た。事務局に確認をしたところ、学校へはこ

れまでも案内を出しているということだった。ほかには、駅でチラシをおくという意見やSNSを利用する、駅でチラシをくばるといったアイデアが出た。いろいろとアイデアは出たのだが、結局、現実的に考えてこれまでと同じ方法で広報をするということになった。次に、市民祭り実行委員会から報告をお願いする。」

ホサニ委員「まずは、前回のインターナショナル・フェスティバルについての振り返りをした。場所が狭かったという意見が出たが、それは抽選で決まるのでしようがないと思う。全体の感想としては、たくさんの方が来て、子どもたちともいろいろなゲームができてすごくよかったという意見が多かった。

9月の多文化フェスタさいわいについては、企画内容は今回と同じ内容でと考えている。かわさき市民祭りについては、テントとパレードの参加ということが決まっていて、一応、これまでと同じように魚釣りとか各国のお茶の提供といったことを考えている。それと、代表者会議をPRできるチャンスなのでそれはしっかりやろうということになった。」

(多文化フェスタさいわいの参加者の確認)

ケゼンガ副委員長「それでは、次にニューズレター編集委員会から報告をお願いする。」

デイトマー委員「今日はニューズレターNo. 58の記事の担当について話をした。資料にもあるように、いくつかの記事については掲載が決まっていて、残りのスペースについて決めた。今日は、ニューズレターは2人だけだったので、私がドイツの冬の楽しみ方、金さんが保育園や幼稚園、学校などの入園・入学の準備について書くことにした。」

ケゼンガ副委員長「今日の議事は以上だ。事務局から事務連絡をお願いする。」

【事務連絡】

- ・やさしい日本語講座について
- ・市内視察について
- ・外国籍県民かながわ会議の募集について

ケゼンガ副委員長「次回の会議は10月16日、日曜日、午後2時から、ここ国際交流センターで開催する。これで2016年度第2回第2日の会議を終わりにする。お疲れさまでした。」